

2024年度ディプロマポリシーに関連した能力に関するルーブリック調査
(自己評価アンケート)

対象：現代ビジネス学科2年次（2023年度入学者の内、卒業要件を満たした学生76名）

アンケート実施期間：入学時 2023年4月・卒業時 2024年12月

卒業時回答率：99%（75名/76名）

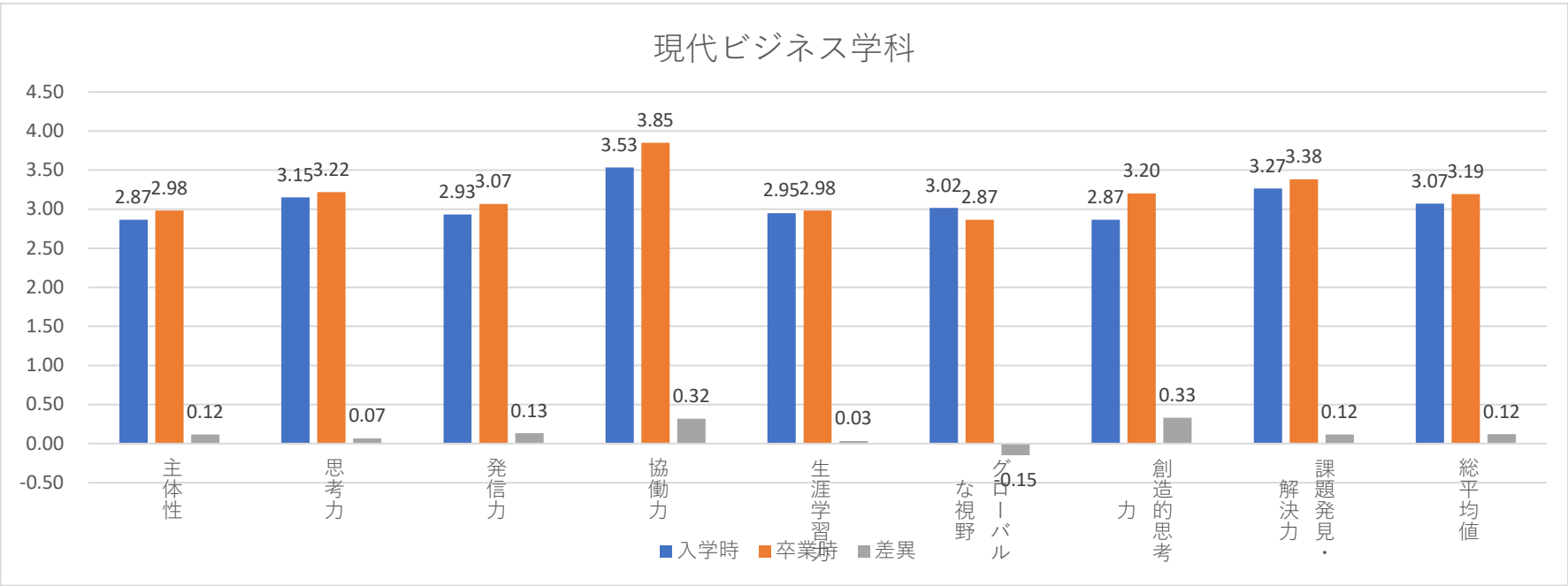
現代ビジネス学科全体

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.87	3.15	2.93	3.53	2.95	3.02	2.87	3.27	3.07
卒業時	2.98	3.22	3.07	3.85	2.98	2.87	3.20	3.38	3.19
差異	0.12	0.07	0.13	0.32	0.03	-0.15	0.33	0.12	0.12

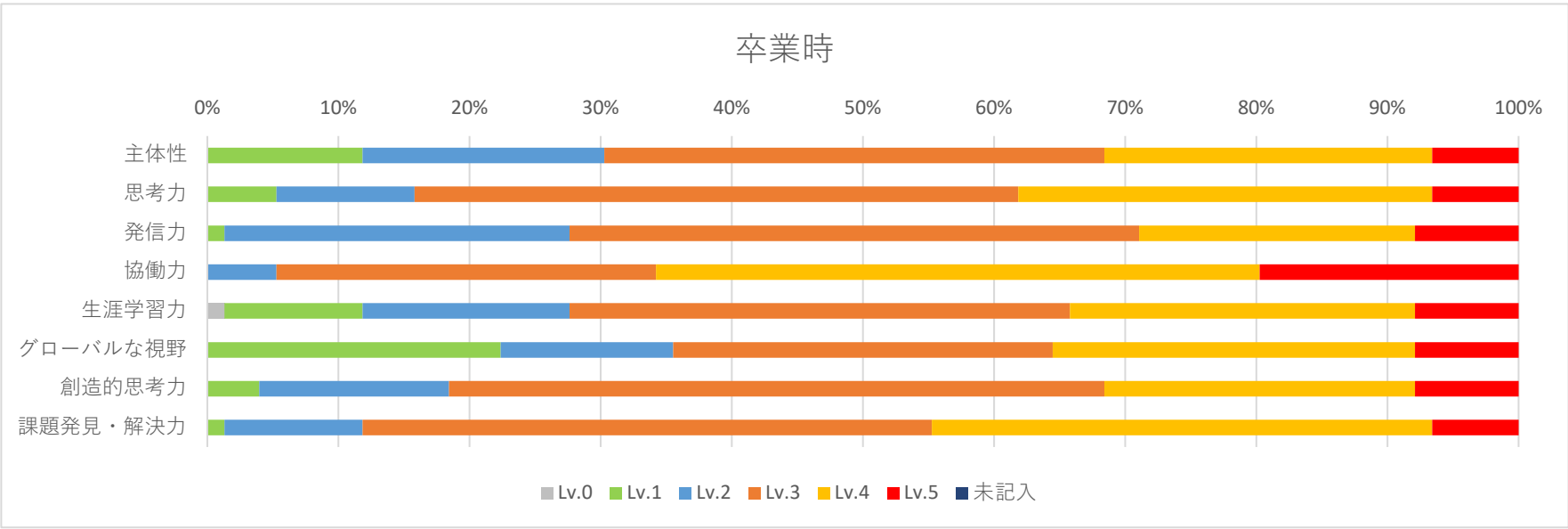
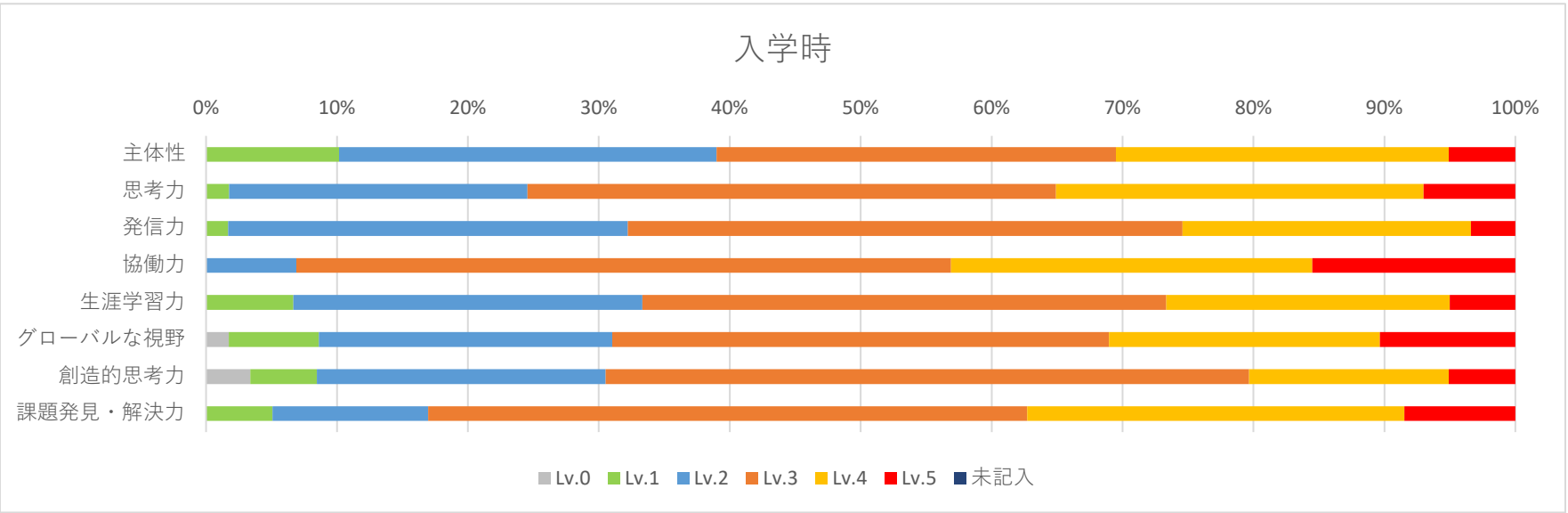
過去3年間の総平均値

入学時	2.32
卒業時	2.83

〈グラフ1〉



〈グラフ2〉 割合比較 ビジネス学科全体（暖色系はレベル3～5、寒色系はレベル0～2）

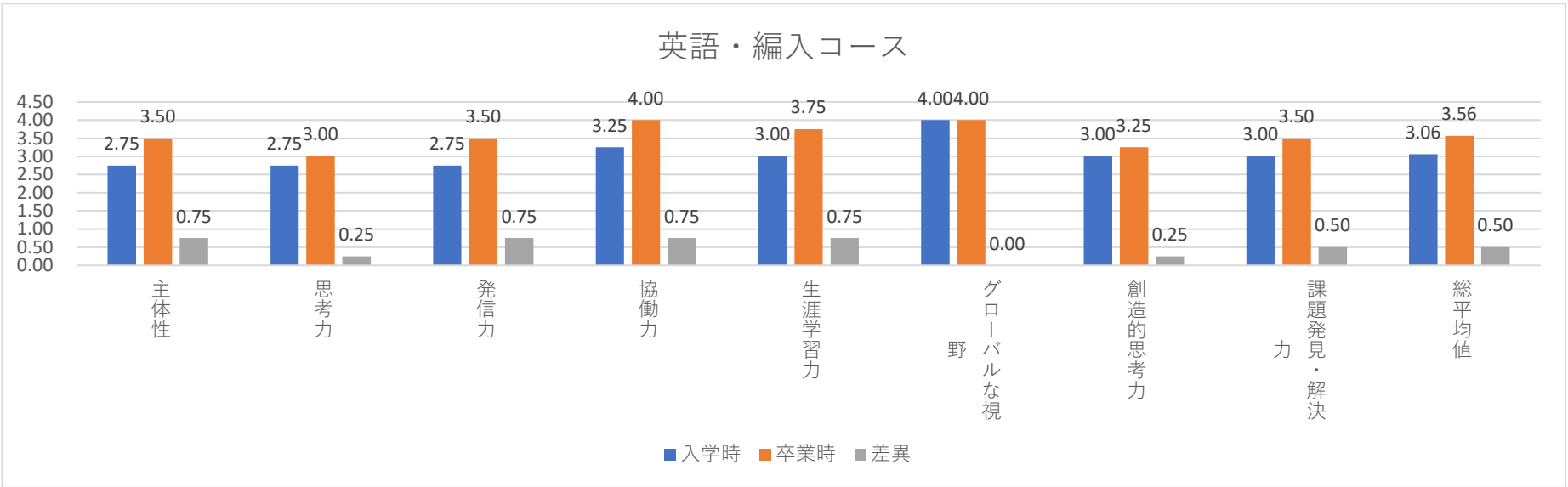


〈グラフ3〉 英語・編入コース

N=4

英語・編入コース

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.75	2.75	2.75	3.25	3.00	4.00	3.00	3.00	3.06
卒業時	3.50	3.00	3.50	4.00	3.75	4.00	3.25	3.50	3.56
差異	0.75	0.25	0.75	0.75	0.75	0.00	0.25	0.50	0.50

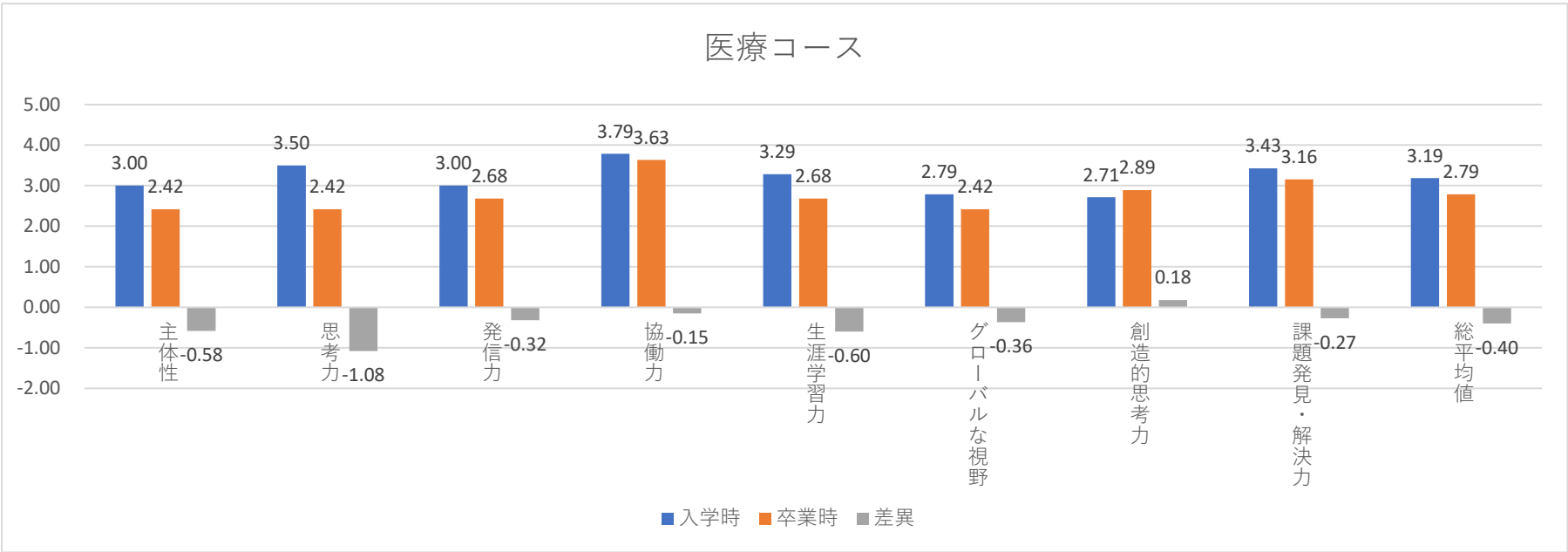


〈グラフ4〉 医療コース

N=14

医療コース

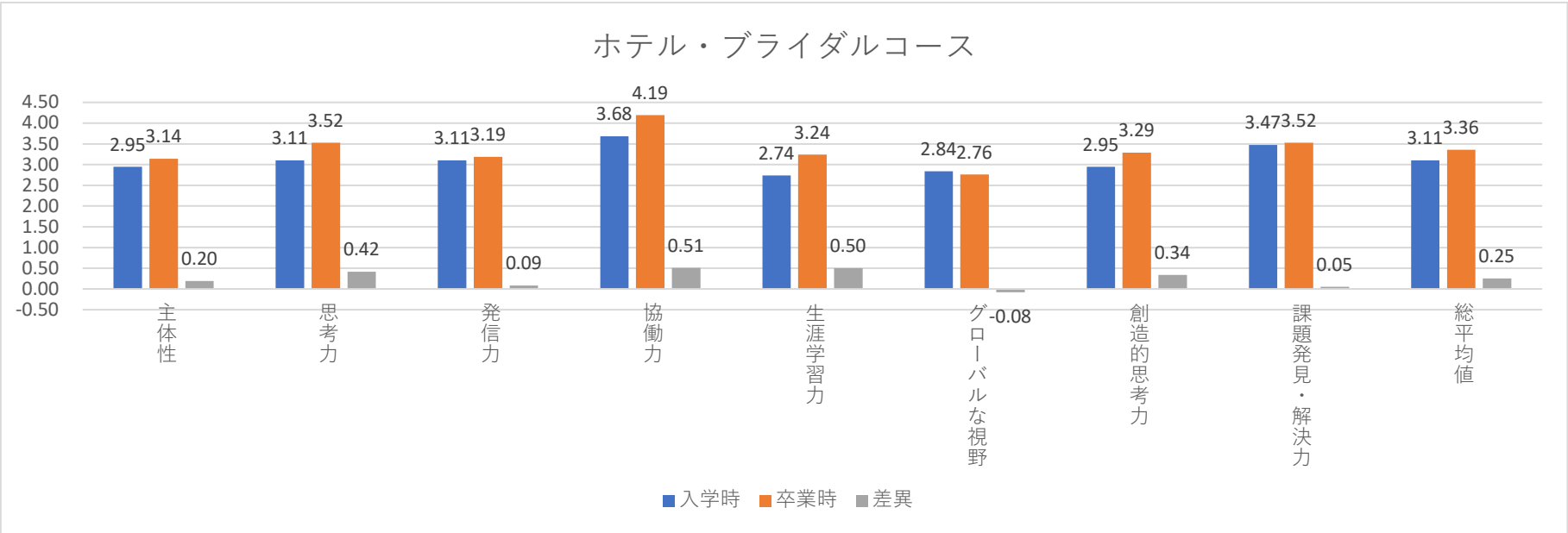
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.00	3.50	3.00	3.79	3.29	2.79	2.71	3.43	3.19
卒業時	2.42	2.42	2.68	3.63	2.68	2.42	2.89	3.16	2.79
差異	-0.58	-1.08	-0.32	-0.15	-0.60	-0.36	0.18	-0.27	-0.40



〈グラフ5〉 ホテル・ブライダルコース
 N=20

ホテル・ブライダルコース

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.95	3.11	3.11	3.68	2.74	2.84	2.95	3.47	3.11
卒業時	3.14	3.52	3.19	4.19	3.24	2.76	3.29	3.52	3.36
差異	0.20	0.42	0.09	0.51	0.50	-0.08	0.34	0.05	0.25

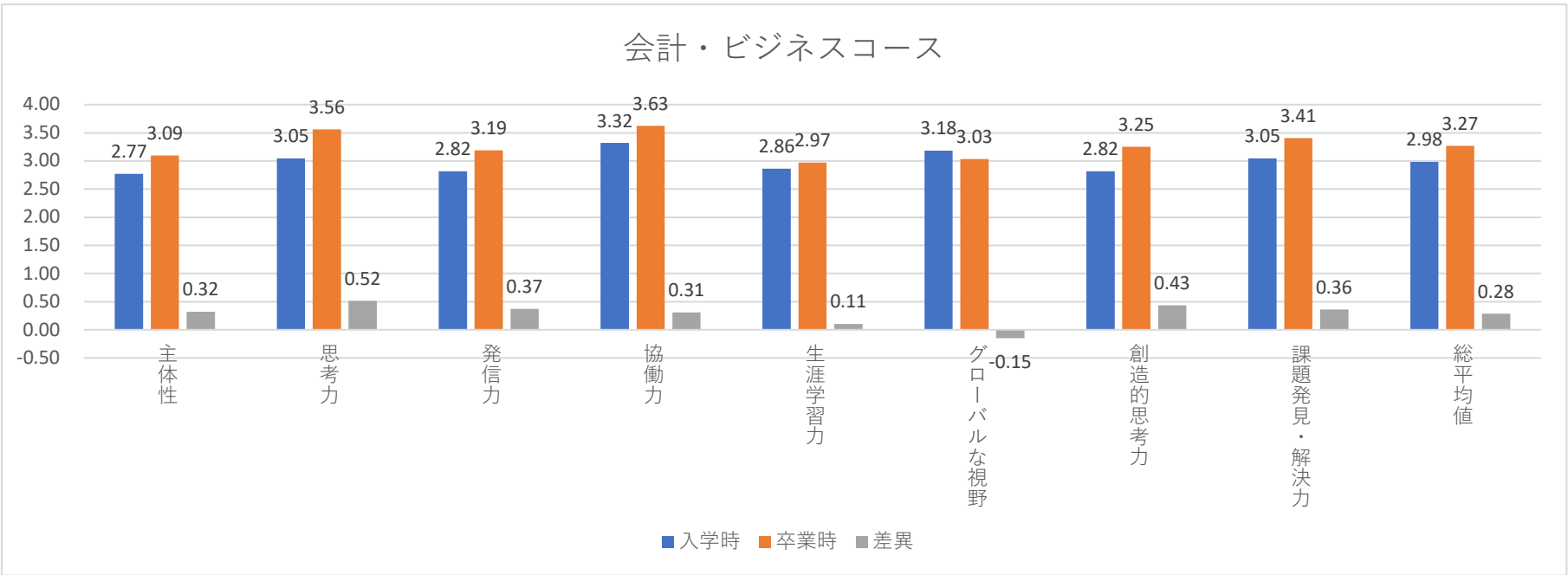


〈グラフ6〉 会計・ビジネスコース

N=22

会計・ビジネスコース

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	2.77	3.05	2.82	3.32	2.86	3.18	2.82	3.05	2.98
卒業時	3.09	3.56	3.19	3.63	2.97	3.03	3.25	3.41	3.27
差異	0.32	0.52	0.37	0.31	0.11	-0.15	0.43	0.36	0.28



《所見》

本調査では、短期大学部2年生（卒業許可者）を対象に、入学時と卒業時のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に関連する能力や知識の変化を分析した。本調査は、ループリックの形式で学生自身が自己評価した結果をもとに行われており、各能力の成長度合いを学生の主観的な視点から測定している。

2023年度入学生は、「協働力（+0.32）」「創造的思考力（+0.33）」「課題解決力（+0.12）」といった実践的・汎用的な能力の成長実感が卒業までにしっかりと伸長していることが確認できる。一方で、「グローバルな視野（-0.15）」の低下は課題であり、国際的な学びの機会創出が今後の改善点となる。特徴的なのは、過去3年間の入学時の総平均値が 2.32 であったのに対し、本年度は 3.07 と 0.75ポイントの上昇が見られる。その要因として、2022年度のポートフォリオ導入に伴い、入学時に実施していた本調査を1年次前期終了時点に変更したことが考えられる。1年次前期の授業がゼミを中心に自己効力感を高める内容となっており、前期終了時点で自己効力感が実感された可能性があるためと考えられる。コース別に見ると、それぞれの教育内容や学修経験に応じた特徴的な傾向がうかがえる。たとえば、少人数で展開された英語・編入コースでは、多くの項目において学修成果の伸びが見られた。また、ホテル・ブライダルや会計・ビジネスの各コースでは、対人スキルや創造的思考力など、実務に直結した力の向上が確認されている。一方、入学時の自己評価が高めに出たコースでは、卒業時にやや慎重な自己評価となる傾向もみられ、これは実習等の現場経験を通じて、より現実的な自己認識が促された結果とも考えられる。いずれのコースにおいても、今後は「グローバルな視野」の涵養や、学修意欲を持続的に支える仕組みづくりが重要な課題となる。